

一遍

-dancing monk ippen-

演出 土井宏晃

作 重信臣聡

製作 風雲かぼちやの馬車

〈登場人物〉

一遍（松寿丸）

超一房

一遍の妻。

通広

一遍の父。

母

一遍の母。

通真

一遍の兄

通久

一遍の叔父。

正室

通真の母。

念仏房

一遍に仕える下人。

大日房

一遍の兄弟弟子

大月房

その弟。

聖達（しようたつ）

一遍の師。

華台（けだい）

一遍の兄弟子。

兵部堅者重豪（ひょうぶじゆしやじゆうごう）

僧。

目黒重行

畠山重忠の孫。問注所で一遍の詮議を執り行う。

ハンヨン

高麗人。

武士たち

僧たち

役人たち

民たち

死者たち

〈シーン1〉

SE 拍子木。

M1 「満月の夜」

闇の中に人々うごめく。

夜・森の中・高台を築く者たち。

SE 雷。

ダンス（民衆）

全員

鎌倉の世に輝く 大きな満月

世が乱れ 争いに疲れた人々を 照らす

救いはなく、震えながら心を癒す

大きな満月の夜に

朝廷か幕府か互いに権力を求め、相争う。

多くの一族が二つに割れた

夜・城内。

SE 雷。

通広

兵1

通広

通真

通広

通真

全員

兄弟でさえも争う時代

朝廷側についたのは弟の通広

そして迫り来る幕府の軍

味方を救うため、息子と妻を置いて城を出た。

SE 波の音。

夜・船の上。

兵2 通久さま、急がねえと嵐が来ます。
兵3 いいんですか。敵味方に別れたとはいえ相手は同じ河野一族ですぜ。
通久 幕府、朝廷、どちらが勝っても生き残る為、我らは別れた。悲しいかなこれも宿命よ。いいか者ども、かつての友も今は敵となった。容赦は無用。我らは無敵の河野水軍。敵を討ち滅ぼせ。
兵たち 応。

SE 波の音。
夜・森、行軍中。

兵1 申し上げます、城が敵に攻められている模様。
通広 この嵐の中を、何者だ。
兵1 敵は、通久殿の率いる河野水軍。攻める勢い激しく、落城は時間の問題です。
通広 陽動か。急いで城に戻るぞ。
兵たち 応。
通広 御仏よ。通真に武運を。

SE 雷。
殺陣(通久)

全員 戦に出たのを狙い、兄の通久が城を攻める
憎んでもいないのに 争う時代
大きな満月の夜に起きた悲しい結末

SE 雷。
夜・城内。

通真 叔父上。
通久 通真か。
通真 兵を引いてください。
通久 馬鹿者。戦場では一切の情を捨てろ、目の前にいるのは敵だ。女子供であろうと容赦するな。
通真 この城は渡さない。

通真、立ちほだかる。

正室
通久 通久様おやめください。
邪魔だ。

正室、斬られる。

通真 母上。

通久 者ども引き上げだ、城に火を放て。

兵たち 応。

通真 畜生。

SE 炎の音

通真、サス（センター前）。

全員

情を捨てた通久は、目の前で母親を殺す世を憎み、通久を憎むのは 通真
城は炎に包まれ、憎しみとともに燃える

夜・城内・燃え盛る炎の中で。

通広 無事か。

通真 母上が。

通広 それも武家に生まれた宿命。

通真 そんなの嫌です。

通広 通真、つらいだろうが・・・。

通真 私は絶対に忘れません今日起きたこと。母上のことを。

兵1 申し上げます。京が敵の手に落ちました。

通広 後鳥羽院は？

兵1 すでに捕えられた模様です。

通広 そうか。皆、武器を捨てよ。戦は終わった。

通真 まだだ、母上の仇を取る。

通広 ならぬ。これ以上、一族同士で殺し合いをすることは断じて許さん。我らは負けたのだ。

通真 ならば、いつそ自害して果てましょう。

通広 通真。生きるのだ。

通真 戦うことも出来ず、何がサムライだ。

通広
それでも生きるのだ。

通広、触れようとす。通真、拒む。
通真振り返る。通真、サス（センター）

通真
叔父が母を殺し、父はその叔父と和解した。父は新たに妻を娶った。この世のどこに道理がある。全てが狂っている。いや、狂っていたのだ、最初から。まさに末法の世だ。

母、サス（センター前）

全員

幕府は勝利を収め権力を握っていった
通広は新しい妻を娶り、運命の子を授かる
大きな満月の夜に

SE 赤ん坊の泣き声。

N 後に慈愛の人と呼ばれるその人の名は一遍

SE 雷鳴。

M1・5 「世界に届くまで1」

一遍、登場。
一遍、サス（センター）

一遍
こころのうちに 人知れずともる光が
今はまだ弱くとも 行く先を照らしてく

SE 雷鳴。

N しかしそれはまだ先の話。物語が始まるのは一遍がまだ松寿丸と呼ばれていた頃の話。

SE 拍子木。
BGM IN。

〈シーン2〉 少年一遍（松寿丸）一三三九。 朝・屋敷の外

民衆たちと相撲をとっている。

念仏房 今日こそ、勝たせてもらいますよ、松寿丸様。

松寿丸 今日は祭りだ、遠慮はいらん。

念仏房 荷物持ちで鍛えた足腰を甘く見ると痛い目見ますよ。

松寿丸 ごちやごちやうるせえ、かかってこい。

民衆 のこったー。

民衆、歓声。

通久、通真、通広サス（上前、下前、センター前）

朝・屋敷の一室にて。

通真 お久しぶりです、叔父上。

通久 通真か。久しいな。

通真 ええ。またこうしてお会いできるとは思いませんでした。

通久 敵味方に別れたのは一族の為、武士に生れついた宿命。

通真 もちろんわかっております。父も、私も。

通広 過去に興じるのもいいが。今日は未来について話そう。

通久 そうだったな。家督を誰が継ぐか。順当にいけば通真だと思うが。

通真 松寿丸にもその資格はあるでしょう。

通久 分けるか、領地を。

通広 承久の乱以降の当家の状況はご存知でしょう。

通久 ならば決めねばならんな。通真か、松寿丸か。

通広 家督を継ぐのは・・・通真。

通久 松寿丸はどうする。

通広 仏門に入れる。

朝・屋敷の外。

BGM IN。

松寿丸、念仏房を投げ飛ばす。民衆、歓声。

松寿丸 どうだ。

念仏房 参った。さすがは松寿丸様。
松寿丸 当たり前だ。俺はどんな時も己の力で道を切り開く。いいか、俺の事は御屋形様と呼べ。
念仏房 はい。御屋形様。

松寿丸、念仏房に手を貸し起こしてやる。
民衆達と退場。
それを見送る母、通真が近づく。

通真 母上。河野家の家督について父上と話しました。
母 そうですか。
通真 気になりますか、我が子、松寿丸の今後が。
母 通真様。私はどうなってもかまいません、どうか松寿丸だけは。お願いします。どうかあの子だけは。
通真 母上は松寿丸を愛しているのですね。
母 通真様、どうしたのです。通真様。

SE 殴る。
通真、母を殴る。そして首を絞める。

通真 松寿丸のことは任せてください。母上。

昼前・屋敷の一室にて。
通久、通広サス（上前、下前）

通久 通真は危険だ。
通広 そのために松寿丸を仏門へ入れるのです。
通久 厳しい道だ。
通広 家に残れば争いは避けられない。一人でも生きていけるようにならねば。
通久 兄と弟が争い殺し合う、嫌な時代だ。
通広 ええ、そうかもしれません。
通久 それはそうと我が娘のことも話しておきたい。
通広 娘？
通久 二つに割れた河野家を一つにする策を考えねばならん。

〈シーン3〉

通真サス（センター）

通真 人は宿命づけられている。死こそ全て。美しい。死からは誰も逃れられない。

昼・屋敷の外。
松寿丸登場。

通真 松寿丸。落ち着いて聞いてほしい。
松寿丸 兄上。どうしたのです。何かあったのですか？
通真 ああ、お前の母上が。
松寿丸 母上が？
通真 亡くなられた。

BGM IN。

松寿丸 なぜ。
通真 御病気だ。
松寿丸 母上。
通真 これでお前も俺と同じだ。

通真、退場。

松寿丸、通広、サス（センター、センター前）

松寿丸 父上、母上が。
通広 ああ。
松寿丸 なぜ人は死んでしまうのです。
通広 それが人の宿命だ。
松寿丸 そんなの嫌です。ずっと母上と一緒に。
通広 松寿丸、心を強く持て。強くなければ生きていけない。強くなるんだ、松寿丸。強くなって、何があつても生きて、生きて、生き抜け。
松寿丸 母上。
通広 聞け、松寿丸。お前はこの家を出て仏門に入るのだ。
松寿丸 僕を捨てるのですか。
通広 お前に残された道は、それしかない。

M 1・7 「世界に届くまで2」

一遍

どうして生きる 誰にも求められずに
どうすればいいのかも わからないなにひとつ

通広退場。

松寿丸、一人座り込む。

超一房、登場。

超一房 なぜ泣いているの？

松寿丸

超一房 悲しいの？

松寿丸 俺はひとりぼっちだ。母上は死に父上は僕を捨てた。

超一房 父上が言ってくれた。人はいつも一人だって。

松寿丸 ほっとしてくれ。この苦しみは俺だけのものだ。

超一房 私はそうは思わない。だってみんないるから。

松寿丸 誰もいない。

超一房 それはきつと目を閉じているから。

松寿丸 お前、名は？

超一房 超一。

松寿丸 超一。

超一房 あなたは？

松寿丸 松寿丸。

超一房 さあ、立って。

松寿丸 今はそんな気分じゃない。

超一房 人は二本の足で立っているから人なのよ。

松寿丸 じゃあ座っているときは人じゃないのか。

超一房 座っているときはお猿よ。

松寿丸 寝てるときは

超一房 うし。

松寿丸、立ちあがる。

超一房 さあ、涙を拭いて。

松寿丸 泣いてなんかいない。

超一房　　あなた嘘つきなのね。

超一房、松寿丸の涙を拭ってやる。
松寿丸、ソッポを向き、離れる。
超一房、忍び寄り、脇腹をくすぐる。

超一房　　よしよしよし。
松寿丸　　やめろよ。

松寿丸、振り払う。
超一房、笑う。

松寿丸　　何するんだよ。
超一房　　だって。笑わないから。
松寿丸　　へんなやつだな。
超一房　　よく言われる。
松寿丸　　ありがとう。

M2 「世界は広がっている」

超一房　　何が？
松寿丸　　なんでもないよ。
超一房　　へんなやつ。
松寿丸　　いつの日か、この苦しみも悲しみも忘れてしまう時が来るのかな。

超一房　　いつかは　忘れるわ　この悲しみ
にじんだ　思い出が　渴いてく
心の　傷だって　癒されるわ
思い出す　いつでも　あなたがいたこと

超一房　　なんて、あんたにはまだ早いか。
松寿丸　　子供扱いするな。
超一房　　あんた子供じゃない。

松寿丸、超一房を追いかける。

二人

涙 こぼれても 君が いてくれたね
悲しみも 痛みも 抱きしめてくれた
涙 もう 渴いたから

また 歩きだす 君と出会う その日を信じたら
人は 一人じゃ いられない
さあ目を 開いて
あなたの 前に 世界は 広がっているの

松寿丸
超一房
松寿丸
超一房
松寿丸
超一房

俺は仏門に入る。
気をつけて、いつてらっしゃい。
お前も。
祈っています。あなたの無事を。心から。
ああ。
忘れないで、あなたは一人じゃない。何があっても。

SE 拍子木。

BGM IN。

〈シーン4〉

朝・寺に行くまでの道中。

民衆1
民衆2
民衆1
民衆3
民衆1
民衆4
民衆1
民衆5
民衆3
N

大変だ、大変だ。河野家の跡継ぎが決まったぞ。
本当か。
間違いない。通真様が跡を継ぐ。
では弟の松寿丸様はどうなる。
どうやら仏門に入るらしい。
口減らしか。
ああ、承久の乱で敗れて以降、河野家の力は目に見えて衰えた。
かつての栄光は失われ、嫡子以外には受け継ぐ財産もない。
まさに諸行無常。
松寿丸は寺に修行に出された。下男と共に。武士としての生活はもうない。寺での暮らしが始まる。

一遍、
SE 太鼓。
念仏房が道中を歩いて行く。

〈シーン5〉朝・寺の庭

聖達、華台登場。

松寿丸

着いたあ。

念仏房

もうダメ、限界、倒れる。

聖達

寺へようこそ。私は聖達。歓迎しますよ。

松寿丸

よろしくお願いします。

聖達

今日からあなたたちは仏に仕える身。まずは名前を与えましょう。

念仏房

名前？食べものじゃなくて。

聖達

あなたは念仏房と名乗りなさい。松寿丸、あなたは一遍と名乗りなさい。

松寿丸

一遍。

聖達

それがあなたの名前です。何も心配はいらない。私とあなたの父上は兄弟弟子の間柄。父上の代わり

一遍

ありがとうございます。

念仏房

あの。オイラ、腹ペコです。

聖達

華台。

華台

はい。

聖達

彼は華台。あなたたちの兄弟弟子です。

華台

私はこの寺で若い僧たちの生活全般を取り仕切っている。

聖達

では華台。後は頼みましたよ。

聖達退場。

華台

お任せください。さあお前たち寺を案内しよう。

三人退場。

BGM IN。

大日房、登場。掃除をさぼっている。

大月房、登場。

大月房

兄者、兄者、兄者。

大日房

どうしたそんなに騒いで。

大月房

近々、托鉢があるぞ。

大日房 本当か。
大月房 ああ、間違いない、さつき聖達様たちが話しているのを聞いた。
大日房 盗み聞きか。
大月房 偶然さ。でも楽しみだな。母ちゃんにも会えるぞ。
大日房 はしやぎ過ぎるなよ。
大月房 それからもう一つ、新入りが来るらしいぞ。
大日房 新入り？
大月房 来たぞ。噂の新入りだ。

一遍、念仏房、登場。

大日房 俺の名前は大日房。
大月房 俺は大月房。
一遍 それがどうした。
大日房 ここでは俺が先輩だ。
大月房 わかったか新入り。
一遍 いいだろうクソチビども。昨日まではお前が幅を利かせていた。が、今日からは違う。俺が来たからだ。わかったか。
大月房 なかなか威勢がいいな新入り。
一遍 そっちこそいい度胸だ、褒めてやる。
大日房 勘違いするなよ新入り。俺は説法よりも力づくの方が得意なんだ。
一遍 気が合うな。俺もそっちの方が得意だ。
大日房 どっちが従うか、はっきりさせてやる。
一遍 退屈せずすみそうだな。来い。

殺陣(喧嘩)

華台登場。

華台 お前たち。何をしています。
大日房 華台様。
華台 大日房。
大日房 はい。
華台 大月房。
大月房 はい。
華台 またお前たちの仕業ですか。

大月房 華台様、これには事情が。
お黙りなさい。

華台

大月房

華台

大月房

華台

大日房

華台

大日房

念仏坊

一遍

華台

一遍

念仏房

一遍

大日房

華台

一遍

華台

一遍

華台

一遍

華台

一遍

華台

一遍

大日房

念仏房

一遍

大月房

一遍

大日房

一遍

罰として、境内の掃除を命じます。

はい。

それから、托鉢には参加しなくて構いません。

それは。

黙らっしゃい。しばらくの間、外出は禁止します。

はい、わかりました。

よかった、よかった。これで一件落着ですな。

華台様。

なんですか一遍。私の処分に不満でも。

はい、不満があります。

ちよつと。

これではあまりに不公平です。今回の諍いには私にも原因があります。片方だけを一方的に罰するのは納得がいきません。私も罰を受けます。

お前。

しかしあなたはここに来たばかりの身。

同じ過ちを犯した者が同じ罰を受けるのは当然です。私を重く罰せないのであれば、大日房と大月房

の罰も軽くしてください。

いいでしょう。自らを罰したいのならば仕方ありません。一遍、念仏房、あなたにも同じ罰を与えま

しょう。境内の掃除と謹慎、いいですね。

はい。

華台、退場。

大月房、大日房、一遍、掃除を始める。

念仏房、いやいやながら掃除を始める。

悪かったな。俺たちのせいだ。

そうだよ。全く。

念仏房。いいんだ、気にするな。

ふもとの村に母ちゃんがいるんだ。托鉢の時、会えるのが楽しみでな。

そうだったのか。

まあ、いいさ。華台様のお怒りがおさまれば、また会える。

母上か。

大日房、一遍に握手を求め。一遍、手を握る。
時間経過ムーブメント(仲良くなつていく過程)
念仏坊、大月房、登場。

念仏房

大月房

念仏房

大月房

念仏房

大月房

念仏房

大月房

念仏房

しかしさあ、この寺の飯はなんだつてあんなにまずいんだ。

ありがたく食え。ふもとの村じゃ食うもんも満足にねえ。けど、それでも仏に仕える俺達にってもらった食いもんなんだ。

仕方ねえだろ、まずいもんはまずいんだからさ。だいたい、いつになったら謹慎が解けるんだよ。もう一月だぞ。十分反省したよ。

知るかよ。

俺も托鉢行つてみたいよ。ちょっとでいいから下界に降りたい。下界の空気を吸いたい。

うるせえ。

そうだ、聖達様の肩を揉みにいこう。な、行こう。

勝手にしろ。

すごく大切なことだぞ。聖達様、肩をお揉みします。あら、ありがとう念仏房。気が利きますね。いえいえ、このくらい当然です。あ、聖達様、凝ってますね。あーそこそこ。念仏房、あなたの罪は許しましょう。じゃあ謹慎は？解きましょう。ごはんを美味しくして下さい。当然です。やったー。それと聖達様、ひとつご相談なんです。御屋形様の謹慎は長めにしておいてください。いや、悪い人じゃないんですけど、ちよつとやんちゃが過ぎるところがあるんですよ。それから性格がひねくれてるんですよ。いや、決して悪い人じゃないんですけど。性根が腐ってるっていうか。どうしてあんなつちやつたんだろ。不思議ですよ。

念仏房が一人芝居を始めたあたりで大月房退場、一遍登場。

念仏房の様子を見ている。

何が不思議なんだ。

……おや。

俺がどうしたって？

あれあれ、御屋形様、いつからいたんですか。あ、肩もみましようか。

いいよ。ほら、あっち掃除して来い。

はい……良かった。聞かれてなかった。

念仏房、後で話がある。境内の裏に来い。

良くなかった。聞かれてた。

後でな。

一遍

念仏房

一遍

念仏房

一遍

念仏房

一遍

念仏房

一遍

念仏房　　はい、後で。

念仏房、退場。
大日房、登場。

一遍　　どうした。しよぼくれて。

大日房　母上が病らしい。托鉢に行ったやつから聞いた。大月房には伏せておいてくれないか。折を見て俺が

一遍　　伝える。あいつは母親想いなやつだから。

一遍　　重いのか？

大日房　わからない。

一遍　　確かめに行こう。

大日房　馬鹿言うな。勝手に寺を出ることは許されない。

一遍　　家族だろうが。聖達様に頼んでみよう。

大日房　許可するはずない。忘れたか、俺達は謹慎の身だ。

一遍　　俺が頼んでみる。

SE
太鼓。

〈シーン6〉　日が沈んですぐ・寺の一室。

一遍　　聖達様。

一遍　　どうしました。

一遍　　大日房と大月房の謹慎を解いてやってください。

一遍　　なぜです。

一遍　　あいつらの母上が病なんです。

一遍　　それは知っています。

一遍　　では。

一遍　　許可はできません。

一遍　　二度と会えなくなるかもしれないですよ。

一遍　　彼らは修行の最中。家族に会いに行くことを許可することはできません。

一遍　　たった一人の母上なんです。

一遍　　例え理不尽でも掟は掟。

一遍　　納得できません。

一遍　　仏門に生きる者は皆、仏法に従わねばなりません。
そんなの間違っています。

一遍、退場。
華台、登場。

聖達 華台。
華台 はい。
聖達 今晩は裏門を開けておきなさい。

M3 「慈悲の種」

華台 かし。
聖達 よいのです。
華台 わかりました。

華台退場。

聖達 如仏、あの子はまるで・・・。

聖達 遠い 記憶から 甦る
あなた の 面影 浮かび上がる
通広 瞳 奥に宿る 光

二人 あふれだす時 きつと 闇を照らすでしょう
いつか 土の中で 種が
目を覚ます時 どんな 花を咲かすでしょう

聖達 雨 降りしきる日もある
通広 向かい風を受けて
聖達 大地 深く根は広がって
通広 いつしか 全てが変わってゆく
二人 季節 めぐり花は しおれ

枯れて散る時 種は 実り宿るでしょう
伸びる 螺旋の先 いつか
辿り着く時 あなた 何を見るのでしょうか

旅は 続いてゆく ふいに
振り返る時 そこが どこか気づくでしょう

聖達 あの子はまるで慈悲の種ですね。どんな花を咲かせるか。

通広 楽しみだな。
聖達 ええ。

聖達、
通広退場。
SE 虫。

〈シーン7〉 夜・寺の庭。

大月房 嘘だ。母ちゃんが病なんて。

大日房 落ち着け。

大月房 誰から聞いたそんな噂、誰だそんな出鱈目を吹き込んだのは。お前か。

念仏房 俺じゃない、く、苦しい。

大日房 よせ。

一遍、
登場。

一遍 おい、何やってんだよ。

大月房 何だと、元はと言えば貴様が。

一遍 会いに行くぞ、今夜、寺を抜け出すんだ。

大月房 そんなことできるか。

一遍 やるんだ。協力してやる。

大月房 本気か。

大日房 そいつの言うことに耳を貸すな。

大月房 けど兄者。

大日房 そいつは新入りだ、この寺のことをわかっていない。話は終わりだ、行くぞ。明日も早い。

大月房 俺の母上は死んだ。もう二度と会えない、寺を出てもな。会いに行くべきだ。

一遍 兄者、俺はこいつを信じるぞ。

大月房 行こう。念仏房、お前もついてこい。

一遍 えっ、いやちよっと急に体の調子が、あ、立ちくらみだ。立ってられない。

念仏房 いいから来い。

念仏房 ……わかりました。

一遍、大月房、念仏房、行こうとする。

大月房 待て。俺も行く。

BGM IN。

大月房 兄者。

念仏房 じゃあオイラは留守番を。

一遍 念仏坊。

念仏房 ……はい。仏様、オイラは進んで掟を破るわけではありません。くれぐれもそのことだけは広いお心の片隅に、はじつこの日当たりの悪いところで構いませぬのでどうか……待ってよー。

ムーブメント（四人、忍んで寺を抜け出す）

〈シーン8〉 夜・大月房たちの実家までの道、および実家前。

一遍、立っている。念仏房、登場。

念仏房 ひどいですよ。置いていくなんて。

一遍 ああ。

念仏房 二人は？

一遍 中に。

念仏房 そうですか。

大月房、登場。

一遍 もういいのか？

大月房 ああ。

一遍 どうなんだ。

大月房 流行り病だ。たぶん……長くない。

一遍 そうか。

大月房 何もできなかった。薬も、食べ物も、何も。

一遍 そんなことない。

念仏房 祈祷でもするか。

大日房
念仏房
一遍
念仏房
大日房
大月房

バカ野郎、お前の祈祷で病が治るか。
じゃあ。
念仏房。
すまん。
いや、いいんだ。
母ちゃん。

M 4 「いつもいてくれて」

一遍

いつも家にいてくれた。そこに安らぎがあった。
俺は何をしてあげられただろう
いつも笑ってくれた。そこに優しさがあった
それは誰からも与えられない。

四人

どんなに美味しいご飯でも
どんなに豊かな暮らしでも
どんなに楽な人生でも
それはきつと得られない
いつも家にいてくれて いつも笑ってくれたから
寂しくなかった 貧しくなかった
ここまで生きてこれたのは あなたのおかげ
これからも生きていく それはあなたのおかげ

大月房
大日房
一遍
大日房
大月房

兄者。
ああ、わかってる。何も言わなくていい。一遍、念仏房、世話になったな。
気にするな。
すまない。大月房、寺に戻るぞ。
うん。

SE 太鼓。

〈シーン9〉 早朝・寺の一室にて。

一遍、念仏房、大日房、大月房が並んでいる。
聖達、華台登場。

聖達 皆、揃ったようですね。
華台 はい。

聖達 あなたたちは修行中の身でありながら寺の掟を破りました。いかなる理由があろうともこれは厳しく処罰せねばなりません。何か言いたいことはありますか。

一遍 ありません。
よろしい。

聖達 あの、オイラは無理やり連れて行かれたというか、その。

念仏房 下手な言い訳は罪を重くするぞ。

念仏房 いえ、やっぱりなんでもありませんでした。

聖達 では、沙汰を言い渡します。

大日房 聖達様。お待ちください。

聖達 何ですか。

大日房 恐れながら、一遍は私の為に掟を破りました。大月房と私の母が病に倒れたことを知り、何とかしようとして、そのために掟を破ったのです。どうか寛大なご処置を。

一遍、そうなのですか。

聖達 いいえ、違います。

一遍、本当の事を言え。

大月房 ではなぜ掟を破ったのですか。理由を話しなさい。
月があまりに美しい晩だったので寺の外へ出て歌いたくなかったのです。他の三人を誘ったのも私です。
大日房は新入りの私を庇おうとしているのでしょうか。

大日房 一遍。

一遍 聖達様にお願ひ申し上げます。どうか正しいご判断を。

大日房 聖達様。一遍は私を庇おうとしているのです。罪は私にあります。どうか一遍には寛大なご処置を。

聖達 もうよい。お前たちの気持ちはよくわかった。しかし、掟を破ったことに対しては厳しい処罰をしなければなりません。特に一遍、脱走を主導したのはあなたですね。そうです。

一遍、今すぐに荷物をまとめなさい。
よろしい、では一遍、あなたはこの寺から出ていってもらいます。他の者は一月の謹慎とします。一遍、今すぐに荷物をまとめなさい。

聖達様。

大月房 どうかお考え直しを。

一遍 わかりました。

一遍、去ろうとする。

聖達 まだ話は終わってはいませんよ。

一遍
聖達

私は追放された身です。
追放ではありません、一遍、あなたには華台と共に大宰府へ行ってもらいます。

BGM IN。

一遍

どういうことです。

聖達

ここはあなたが修行をするには少し狭すぎるようです。大宰府で修行を積みなさい。

華台

榮譽なことだ。誰もが選ばれるわけではない。

聖達

大宰府には各地から選ばれた若い学僧や大陸から海を渡り様々な人や物が入ってくると聞きます。一

一遍

遍、自らを磨きなさい。多くの人の力になれるように。
ありがとうございます。

一遍達はける。

華台

よかったですか？あれで。

聖達

まあ、彼を放りだしたら世間が迷惑するでしょう。

華台

最初からわかっていたのですか？

聖達

まさか。思ったよりも少しだけよい方向に向かっています。

華台

聖達様は、あの子を、一遍をどうするおつもりですか？

聖達

あの子には不思議な魅力があります。慣習にとらわれず自らの信念を貫く強さ。彼ならばきっと多くの

華台

の人に御仏の教えを届けることができるでしょう。

華台

しかし彼は武家の人間。このまま仏門に留まるでしょうか。

聖達

仏門に留まる者だけが仏法に生きる人間とは限りませんよ。

華台

だといのですが。私には一遍がこのままで済むとは思えません。保守的な僧たちもいます。彼らが

聖達

一遍を認めるとは思えません。

華台

華台、あなたがあの子を導いてやってください。
わかりました。

SE 拍子木。

BGM IN。

〈シーン10〉朝から昼にかけての僧たちの修行。

ムーブメント (僧たちの修行)

N 建長三年、一遍はさらなる修行の為、九州、大宰府へ向かい、旅立った。

〈シーン11〉昼・寺の一室にて。

兵部、登場。

念仏房

みんな、真面目に読経してますね。

一遍

クソ真面目に読経ばかりで、案外大したことなさそうだな。

兵部

なかなか面白い弟子ですな。華台殿。

華台

これは兵部殿。お出迎えいただけるとは。

兵部

まさか聖達様が仏を愚弄する愚か者を送り込んでくるとは。非常に興味深い。

華台

お恥ずかしい限りです。

一遍

おい、喧嘩ならいつでも買うぞ。

兵部

この恥知らずめ、読経を軽んじ、己の分をわきまえない愚か者め、少し懲らしめてやろう。

華台

お待ちください。

兵部

小僧、名は？

一遍

我が名は兵部堅者重豪、比叡山延暦寺東塔桜本の僧。いざ、仏法問答仕る。

兵部

仏法問答？

一遍

仏門に生きる者ならば、見事応えて見せよ。

兵部

上等だ、来い。

一遍

一遍に問う。お前は何のために生きる。何のために死ぬ。

兵部

そんなの知ったことか。俺は俺の為に生きる、そして順番が来たら死ぬ、それだけだ。

一遍

無為に生きるということか。ならば一遍に問う。なにゆえ僧となった。

兵部

親父の決めた道だ。俺の意志ではない。

一遍

そんなものはない。

兵部

仏法を持たず生きようとは、愚かなり一遍。

一遍

仏法が何の役に立つ。

華台

そこまで。

兵部

華台殿。

華台

この問答、勝負はついたようです。これ以上は互いに得るものもないでしょう。

兵部

そのようですね。一遍、お前は囚われている、己という小さな世界に。それでは誰も救えない。

一遍

待て。

兵部、退場。

何です、あいつ？

彼は兵部堅者重豪。あの若さで比叡山延暦寺を代表して仏法問答を行う知恵者だ。仏法問答。

お前はすでに仏門に生きる者。だからこそ、彼はお前に仏法問答を挑んだ。そんなの迷惑なだけです。

一遍。お前は何を為す。修行の道を進めば人より多くを知り、人より先を見据え、人より大きなものに対峙することになるだろう。それは苦しみの道、孤独の道だ。お前は何を胸にその道を進む？

俺は父上に言われて仏門に入っただけです。それだけじゃいけませんか。不足を感じているのは他ならぬお前自身ではないのか。

俺が自分自身を物足りないかと？
感じたのではないかあの男に。あこがれ、あるいは恐れを。
違う。

偽るな、一遍。
偽ってなどいない。

恐れるな、あるがまま受け入れればいい。全てはそこから始まる。
あるがまま受け入れる。

そうだ一遍。汝、世界を知れ。

M 5 「世界に届くまで」

世界。

一遍よ。この世は広い。お前が思うよりもずっと。
なら聞いてやる。この世の広さがどれほどのものか。

日の本は四方を海に囲まれている。
海なら知っている。俺は瀬戸内で育った。

海を越えた西方には高麗、そして宋の国がある。
その海は瀬戸内よりも広いのか。

遥かに広く、深い。
その先には何がある。

元。
元？

世界で最も広く、強大な騎馬民族の国。海を越えた高麗の国では王と貴族たちは互いに権力を求め、相争い、民は顧みられず、元に蹂躪されつづけている。

一遍 華台
一遍 華台

一遍 華台
一遍 華台
一遍 華台
一遍 華台
一遍 華台
一遍 華台
一遍 華台
一遍 華台
一遍 華台
一遍 華台

一遍サス（センター前）

一遍
世界は広い 俺は何も知らなかった
人々の苦しみを 人々の悲しみを

華台
そうだ。一遍、お前はまだ若い。己を知り、世界を知り、無知を知るのだ。世は苦しみ、悲しみに満ちている。

一遍
人は 誰もが 希望を求めて 闘ってる
心の闇と ひとり

華台
一遍、答えを焦ってはならぬ。
希望はないのでしょうか。

華台
ある。人を争いに駆り立てるのが心であれば、人を幸福に導くのもまた心。

一遍
仏の教えが人々を幸福に導く唯一の道と言うことですか。

華台
我々僧や教えが人々を幸せにするのではない。人々が自らを幸せにするのだ。いずれわかる日が来る。逃げずに向き合い続けられれば。

一遍
はい。

華台
一遍。世の人の光となれ。

一遍
争い 奪うことも 与えることもできる
何も知らなかった 小さな自分

この手 この足で 今俺にできること

大地を踏みしめ 手をかざし

俺は叫ぶ

この声が 世界に 届くまで

一遍
兵部。俺はいつかこの世の光となる。人々を苦しみから救って見せるぞ。

兵部サス（センター）

兵部
面白い。受けて立とう、どちらがこの世を照らす光となるか。楽しみにしているぞ、一遍。

SE
雷。

〈シーン12〉 一遍の迷いの世界。

ダンス (天地)

導くもの「天」。闇の中には落ちた者たち。
天サス (センター奥)

天 一遍、一遍。
一遍 誰だ。
天 覚悟を決め、この道を進みなさい。

一遍、歩き出す。
地たち、一遍にしがみつき、引きずり込もうとする。

地 行くな。戻ってこい。行ってはならぬ。置いてかないで。お前はこっち側の人間だ。行くな、行くな、戻ってこい。そっちは危ないぞ。
天 困難は進めば進むほど襲い来るもの、試練は祝福のさきがけ。迷わず進みなさい。留まれば死すのみ。
一遍、逃れようとする。

地 行くな。戻ってこい。行ってはならぬ。置いてかないで。お前はこっち側の人間だ。行くな、行くな、戻ってこい。そっちは危ないぞ。

一遍、次第に引きずりこまれる。
一遍 やめろ、放せ、やめろー。

SE 雷。 ダンス。

N 一二六三年、一遍、二五歳。

SE 雷。 華台、登場。

華台 一遍、一遍はいるか？

一遍サス（センター前）

華台 一遍 はい、ここに。
一遍、落ちて聞いて聞け、お前の父上がお亡くなりになった。

SE 太鼓。
通広サス（センター）

一遍 父上、人はなぜ生きるのでしょうか。いつか死んでしまうのに、なぜ生きるのでしょうか。生きるこ

とに意味なんてあるのでしょうか。

人は死ぬ、その日はいつかやってくる。いつかだ。それは誰にもわからない。しかし来る。必ずだ。

はぐらかさないでください。

生に意味などない。

・・・

怖いか。

はい。

通広 しかしな。人は生に意味を見出すことができる。自分で自分の人生に意味を与えるのだ。それが人の

素晴らしさ。それが人の尊さだ。ただ獣のように生きることも、自らを律し、高潔に生きることもで

きる。腹を決める。自らの生を見つけて見せる。

俺にもできるでしょうか。いつか、自分が生きる意味を、見つけることができるでしょうか。

一遍は父の悲報を受け、兄の待つ実家に戻った。そして、妻を娶り、子を設けた。束の間の平穩。そ

れは嵐の始まりだった。一遍の一族。その宿命。答えが出る時は。今。

ダンス。一遍、踊念仏を生み出す。

SE 雷。

SE 地鳴り。

暗転。

〈シーン13〉昼・屋敷内の一室。

SE すずめ。

通久 弟に領地を分けてやらねばならん。

通真 一遍にですか。

通久 そうだ。

通真 父は領地を分け、河野家が没落することを恐れたからこそ一遍を寺に入れたのです。

通久 一遍は還俗した。

通真 だから領地をよこせと。

通久 それが慣習だ。

通真 まるで父親のような振る舞いですね。叔父上。

通久 一遍は我が娘の夫。いかにも私は義理の父だ。

通真 当主は私だ。

通久 まあ、焦ることもない。明日は通広の一周忌。そこで一族の総意を確かめよう。

通真、
刀を抜く。

一遍 叔父上。

通久 いつかお前に父上と呼ばれる日が来るのかな。

一遍 それは。

通真 もはや、一刻の猶予もない。勝たねばならん。でなければ全てを失う。

通久 わかっている。知っているだろう、お前の兄、その母のことも。

一遍 不幸な事故だったと。

通久 殺したのだ、私が。

通真 母上、今度こそ討ちます。憎き敵を。勝つのは俺だ。

一遍 なぜそんなことを。

通久 私は一族を守る。何があっても。通広も同じ想いだった。お前なら止められるかもしれない。通真を。

一遍 血ぬられた一族の宿命を。

通真 できるでしょうか私に。

一遍

一遍

一遍退場。

兵4 表門、裏門ともに兵を配しました。

通真 太鼓を。

BGM IN。

通真 母上、聞こえていますか太鼓の音が。今に叔父上の断末魔の叫びをお耳にいれて差し上げます。これははじまりの合図。・・・それとも、終わりの合図か。どちらにせよ、後には引けない。決着をつけよう。生き残るのはどちらか。者ども、かかれ。

兵たち 応。

〈シーン14〉夜・屋敷内・燃え盛る炎の中で。

殺陣

通真 叔父上。
通久 来たか通真。
通真 待ちわびていました。この日が来るのを。
通久 ようやく牙を剥いたな。退屈したぞ。

殺陣

一遍 兄上。もうやめてください。
通真 叔父上の次はお前だ。それともお前が先か。
通久 どいている。

通久、一遍を庇い、通真の刃に倒れる。

一遍 叔父上。
通久 ぬかったわ。
通真 まだだ。まだ終わりではない。
通久 やれ、こいつを斬れ。

一遍、刀を構える。

一遍 兄上。
通真 いい目だ。俺と同じ目をしている。

一遍
通真

終わりにしましょう、何もかも。もう十分です。
必死に堪えるか、怒りを。そんなことをしても怒りは消せない。火種はくすぶり、いつか再び燃え上がるのだ。母上、見えていますか、この館が燃えていく様を。すぐそばに母上を感じます、燃え盛る激しい怒りを。

殺陣

通久
一遍
通真
通久・道真

全てを焼き尽くし灰と散る。終わりにしよう。我らの血ぬられた宿命を。
叔父上。
母上、あたたかい……。
うおおおおお。

SE 斬り音。

通久、通真倒れる。
一遍サス（センター前）

一遍

兄上。

M5・5 「世界に届くまで3」

一遍
人は いつまで 争う定めを 止められずに
のこされてゆく ひとり

〈シーン15〉深夜明け方・屋敷が見渡せる丘。

念仏房
超一房
一遍
念仏房
一遍
念仏房

御屋形様、何もかも燃えてしまいました。
とにかく、無事でよかったです。
俺は旅に出る。
この家はどうするんです。
俺は仏の道に戻る。仏法に生き、苦しむ人々を救ってみせる。救えなかった叔父上や兄上の為にも。
待ってください。こんなところに置いていかれても困りますよ。

念仏房

念仏房

超一房

オイラがいないと困るでしょう。

一遍

私もついていきます。

念仏房 奥方様、そいつは無茶ですよ。
超一房 念仏坊だけでは心配です。
念仏房 こりや逃げられそうもありませんね。
一遍 本気か。
超一房 もたもたしてると置いていきますよ。

〈シーン16〉 夜・川辺。

僧1 川辺に病人たちを集める僧形の集団があると町で噂になっております。
兵部 どんな噂だ。
僧1 人々を集め、歌い踊ることで悟りを開けると喧伝しているとか。
兵部 いかにも俗人の考えそうなことだ。
僧1 僧形である以上、我々がなんとかせねば。しかし何者なんでしょうな。
兵部 私に心当たりがある。
兵部殿。
僧1 私にお任せ願いますよう・・・一遍。

SE 拍子木。

朝・川辺。
踊り念仏。老いも若きも踊る。

M 6 「踊念仏（民衆）」

全員

踊れや踊れ 命の限り
歌えや歌え 魂の叫び

喜びがここにある
希望がここにある
救いの世界は今ここに
月を見上げ 目を開く

踊れや踊れ 命の限り
歌えや歌え 魂の叫び

大地を踏みしめ 高く舞う

この一步が慈悲の念　この一步が慈愛の念
舞い踊れ　愛の世界へ　舞い踊れ　救いの世界へ

役人たち人々をかき分けて登場。

役人

どけ、邪魔だ。道をあける。

念仏房

なんだ、なんだ、何事だ。

役人

一遍殿はおいでか。

一遍

私が一遍にございます。

役人

私はこの地の治安を預かる者。貴殿を拘束するように命令が出ています。

念仏房

オイラは関係ありません。本当です。通りすがりの行商人なんです。

一遍

お待ちください。我らに何の罪があるのでしょうか。

兵部、登場。

兵部

己の胸に訊くがいい。

一遍

兵部。

兵部

久しぶりだな、一遍。話は後でゆっくり聞こう。仏には慈悲がある。貴様らには申し開きの場が与えられるだろう。

SE 太鼓。

〈シーン17〉 昼・奉行所。

重行、登場。

重行サス（センター奥）

役人

僧、一遍の罪状は以下のとおりである、一、僧でありながら仏を侮辱した。一、仏の教えを捻じ曲げ民衆に誤った教えを流布した。一、大音量の歌舞音曲により読経を妨害した、一、人々を扇動し、幕府の転覆を企てた。

重行

これより詮議を行う。真実のみを述べるように。一遍、そなたは自分が何をしたかわかっているのか？

一遍

衆生の救済。

重行

なぜ捕えられた。

一遍

執着と嫉妬ゆえ。

重行
一遍

なぜ人を集め、歌い、踊る。
歌い、踊ることは人のありのままの姿。衆生の救済に理屈も修練も必要なく、一心に仏を想い、歌い、踊る、ただそれのみ。

兵部

ふざけるな。御仏を愚弄するのもいいかげんにしろ。この男の言うことを聞いてはなりません。御仏の教えに逆らえば待つのは地獄のみ。

一遍

人を見るに、肝要なのは、行い。百聞は一見に如かず。踊念仏をご覧にいきましょう。

兵部

その口を閉じろ、一遍。これ以上は見るに堪えん。お前がそれほどまでに狂っていたとは。信じられん。尊い御仏の教えを踏みにじり、民衆を惑わす。それが一度でも仏門をくぐったものの行いか。恥を知れ。

重行

見せてもらおう。その踊念仏とやらを。

兵部

おやめください。

重行

もし、心によましいところがあれば、歌の音は狂い、踊りには迷いが生じるだろう。どうだ、一遍。

一遍

この歌責め、踊り責め受けて立つか。かしこまりました、念仏房。

M7 「踊念仏（一遍）」

念仏房

遠くのは音に聞け、近くのは目に刻め。御仏の極意、踊念仏、ご照覧あれ。

一遍

踊れや踊れ 命の限り
歌えや歌え 魂の叫び

全員

喜びがここにある
希望がここにある

救いの世界は今ここに
月を見上げ 目を開く

踊れや踊れ 命の限り
歌えや歌え 魂の叫び

民衆

大地を

一遍

踏みしめ

民衆

高く

一遍

舞う

民衆

この一歩が

一遍 慈悲の念
民衆 この一步が
一遍 慈愛の念
民衆 舞い踊れ 愛の世界へ
一遍 舞い踊れ 舞い踊れ
民衆 舞い踊れ 舞い踊れ
一遍 救いの世界へ
救いの世界へ

兵部 騙されてはなりません。踊念仏など御仏の教えを汚している。
念仏房 見ろ、この人たちは皆、踊念仏で救われた人たちだ。
兵部 黙れ。これは御仏の冒涇、仏法への挑戦だ。
一遍 私を信じなくともよい。人々は阿弥陀仏によって救われるのだ。私が救うわけではない。
兵部 話にならない。重行様、どうか厳しい裁きを。
重行 一遍。そなたらの踊念仏、見事であった。
念仏房 それじゃあ。
重行 一遍とその一行は無罪放免とする。

BGM IN.

兵部 お待ちください。
重行 裁きは下った。兵部殿、よろしいな。
兵部 納得できません。どうかお考え直しを。
念仏房 往生際が悪いぞ。
兵部 貴様。

兵部、念仏坊に詰め寄る。
一遍、立ちほだかる。

兵部 こいつを信じたこと、いつかきつと後悔することになるぞ。人が裁かずとも、御仏は真実を知っている。そのことを忘れるな。

人々、喜び合う。
兵部振り返る。
兵部サス（センター前）

M8 「決着の時」

僧2 兵部殿、困ったことになりましたな。
僧3 以前にも増して民衆に踊念仏が広がっている。
僧4 これは由々しき事態ですな。

兵部 広がってゆく 過ちが 正すこともできずに
恐るべき罪 つぐないを 教えのまま 従え

全員 これは一大事 今に訪れる 破滅の足音
どうするべきか 考えよ 見つけるのだ 根源
やるのだその手で

兵部 私にお任せください。次こそは必ず。
僧3 何か策でも？

兵部 はい。今、老岐が蒙古によって蹂躪されています。一遍を、戦場に送り込むのです。
僧4 どうやって。

兵部 踊念仏で多くの人が集まっている前で奴に問うのです。踊念仏で人々を救えるのなら、多くの人が
苦しむ戦場へ行けと。行けばただでは済みません。しかし断れば、一遍は自分の限界を人々に露呈す
ることになる。どちらに転んでも逃げ場はない。
僧5 いいでしょう。しかし、もし一遍が無事に戻ってきたら、その時はわかっていますね。
兵部 その時は。

全員 我らが 積み重ねた 偉大な業績 栄光
我らが 築き上げた 貴重な領域 誰にも渡さぬ
御仏の 導き 見えるはず

全員 覚悟を決めよ できるはず

兵部 断ち切るのだ 迷いを
僧3 後には退けぬ 道はない
兵部 捨て去るのだ 甘えを

全員 これは選ばれし者に 訪れる
兵部 試されている
僧3 今がその時 乗り越えよ
兵部 導きたまえ我を

兵部 今がその時 乗り越えよ
導きたまえ我を

全員
兵部

お前にしかできない 手段は選ぶな
正しき世界へ
決着の時 行こう 信じたこの道 やるのだこの手で

BGM IN。

〈シーン18〉 昼・海近くの戦場。

民6 船だ。蒙古の船だ。

民7 すごい数だ。海を覆い尽くしてる。

民8 老岐では男は皆殺し、女子供は奴隷にされたらしいぞ。

民9 蒙古の大軍だ。蒙古の大軍が攻めてきたぞ。

殺陣（ハンヨン乱戦）

〈シーン19〉 夕方・戦場近くの森。

傷ついたハンヨン、その場に膝をつく。

念仏坊登場。

ハンヨン、念仏坊を斬りつける。

念仏坊

一遍 お屋形様。
武器を置け。

ハンヨン お前、言葉がわかるのか？

一遍 そうだ。私はあなたを傷つけたりしない。

ハンヨン よせ、私に構うな。

一遍 傷の手当てをするだけだ。

ハンヨン 近づくな、止まれ。

刀を振り下ろす、一遍は微動だにしない。刀は寸止めされている。

一遍 治療に刀は不要だ。

ハンヨン こいつがないと落ち着かないんだ。

一遍 必要ない。

ハンヨン ある。

超一房 私が手当を。
念仏房 超一様、危険です。
超一房 大丈夫よ。
ハンヨン どうかしてる。敵の兵士を手当てするなんて。
一遍 お前はただの怪我人だ。
ハンヨン とんだ甘ちゃんだ。ううっ。
超一房 もう少しの辛抱です。
ハンヨン いたっ。
超一房 我慢してください。
念仏房 傷の手当ては終わったんだ。こいつでふんじばりますよ。
一遍 必要ない。
念仏房 こいつは敵ですよ。オイラ、殺されそうになったんですよ。
ハンヨン 寝首かかれても泣き言を言うなよ。
念仏房 黙れ。この野郎。
ハンヨン しっかり縛れ。
念仏房 ふん、言われなくともそうするよ。
一遍 念仏房。縄は必要ない。
念仏房 おかしいですよ。
一遍 怯えているだけだ。
念仏房 正気ですか、何人殺したかもわからないやつですよ。
超一房 念仏坊、落ち着いて。
念仏房 殺されても知りませんよ。
一遍 信じてみよう。
念仏房 御屋形様の無茶は今に始まったことじゃありませんけどね。オイラは反対しましたからね。
ハンヨン おい、坊さん。あんた私をどうする気だ？
一遍 お前はもう殺したいんだ？戻りたいのか？軍に？
念仏坊 ごめんだ。殺すのも殺されるのもまっぴらだ。
ハンヨン じゃあなぜこの国へ来た。戦をしに来たんだらう。

BGM IN。

ハンヨン
私の故郷は高麗だ。高麗では私みたいなやつが山ほどいる。戦場で捕虜になれば、そのまま捕まって奴隷同然に働かされる。艀をこぐんだ。毎日毎日、それだけだ。おとなしく言うことを聞いているやつには飯を食わす。従わないやつは殺される。そうしていくうちに私達は本当の奴隷になるんだ。そうなれば最後、武器を持たせて戦場に出しても逆らわなくなる。命令に従うことしかできない。ほと

念仏房

ハンヨン

一遍

ハンヨン

一遍

ハンヨン

一遍

ハンヨン

一遍

ハンヨン

んどの奴はそうだ。生きちゃいないんだ、ただ動いてるだけ。それが敵の正体さ。ごまかしだ、お前らが殺すから人が死ぬんだ。

確かに私は殺した、しかしそれはお前たちも同じだろう。違うのか。

この道を下ると小さな漁村がある。そこへ行けば舟がある。仲間の船に戻れるだろう。逃がすつもりか。

この国の者たちに捕まれば無事ではすまない。

とことん甘い男だ。

自分の国へ帰るといい。

それは慈悲のつもりか。

私は一切の衆生を救済したいと思っている。

バカなことを。人のために生きる。バカバカしい。そんなことできつこない。誰かのために生きられるなんて驕りだ。愛も慈悲もすべてはまぼろしだ。地獄を知らない奴らのたわごとさ。敵はまた攻めてくる。

殺して、殺されて。それでいいのか？

生きることが闘いなんだ。私達にとつては。

それで満足か？十分だと思うのか？

あんたの名前は？

一遍。

私はハンヨン。あんたに会えてよかった。

何もできないんだな、俺は。

一遍。

SE 雷。波の音。
BGM IN。
夜・船の上・嵐の中
ハンヨンサス（センター）

ハンヨン

一遍

ハンヨン

一遍

ハンヨン

一遍

ハンヨン

一遍

ハンヨン

一遍

ハンヨン

一遍

申し上げます。敵が攻めてきます。このままここに停泊していれば一網打尽になります。すぐに沖に出るよう進言いたします。これは敵地に潜入して得た確かな情報です。この情報は皇帝陛下と我が祖

一遍。あんたがどれほどもがいても、この世の大きな流れは変えがたい。大河に一匹の魚が跳ねるようなもの。それでもあんたはやるんだろな。きつとやりぬくだろう。願わくば、あんたともつと早く、別の出会い方が出来ていれば。今となつてはそれだけが口惜しい。・・・いや、違うな。死の間際でもあんたに出会えたことは私の財産、私の宝だ。誰かの為に、何かを成す。こんなにも穏やかな心持になったのは、いつ以来だろう、一遍、人はこんなにも穏やかな心持ちになれるんだな。いい気分だ。空は嵐だが、心は晴れ渡っている。一遍、一足先に行くぞ。

国、高麗国王に誓って真実です。

SE 雷鳴。波の音。
暗転。

〈シーン20〉 朝・丘の上。

SE すすめ。

超一房 無事に帰れたでしょうか。

一遍 わからない。

念仏房 いいじゃないですか。結果として敵は嵐に沈んだ。

一遍 敵などいない。いないはずだ。

念仏房 でもおかげで多くの人が救われた。

一遍 本当に誰かを救えたと言えるのか。

念仏房 人が死ぬのは止められません。

一遍 俺はあきらめたくない。

念仏房 オイラにはできません。

一遍 やるんだ。

一遍、念仏房の胸倉をつかむ。

念仏房 御屋形様。

一遍 すまない。

一遍、手を放す。

念仏房 御屋形様は特別なんですよ。オイラみたいな凡人とは違うんです。

一遍 違わない。

念仏房 違う。オイラにはできない。

超一房 念仏房。

超一房 すみません。もう行きます。お元気で。祈ってます。成功を。心から。

一遍 念仏房。

念仏房 ハイ。

一遍 忘れるな、苦しい時は歌い、踊れ。

念仏房
一遍

ハイ。
答えはそこにあるから。宇宙はそこにあるから。

M 9 「思い出すように」

念仏房
一遍

ハイ。
今までついてきてくれて、ありがとう。

念仏房サス(センター前)
一遍たち退場

念仏房

御屋形様。なんでそんなこと言うんですか。優しい言葉なんてかけんで下さい。

念仏房

あなたの 優しさに
あふれた日々が いつでも ある それだけで
うしなつたときが こわくなる

ひのうちどころのない あなたのそば
ふと気付いた 瞬間に さける ところが
もう かくせない なぜだろう
ふたり あるく 距離は おなじ だった はずなのに
いまは みえない あなたのかけ
それでも わたしは おどります
たびのきおく よみがえる
思いが あふれだす ように
思い出すように

念仏房、去る。

SE 雷
BGM IN。

〈シーン21〉

一遍サス(センター前)

兵部サス（センター）

兵部

一遍

一遍。

兵部。

いざ仏法問答、仕る。

来い。

お前のしていることは御仏を愚弄する行いだ。即刻やめろ。

断る。人は生まれ、死んでいく。仏法も同じこと。新たに生まれる仏法もある。

ならば決着をつけよう。

なぜ闘おうとする。

許せんだ。御仏を軽んじるお前の事が。

どうしてもわかりあえないのか。

答えは出た。我らは水と油、存在自体が相容れぬ。

わかりあえるはずだ。

ならば私に従え。

兵部、お前なら理解できるはずだ。踊念仏を。

笑止。

見たはずだ、人々の踊る様、歌う様を。それを広めて何が悪い。

黙れ黙れ、お前が僧である以上、仏法に従え。

目を開き、耳を澄ませろ。見えるはずだ、聞こえるはずだ。人々の歓喜が。

お前は間違っている。

兵部、短刀を抜く。

SE 短刀を抜く。

それが御仏の意志か。

そうだ。

人を殺すことが。

お前は人ではない。敵だ。

ならば御仏の意志のままに。

仏敵、死すべし。

兵部。

一遍

兵部

一遍

兵部

一遍

兵部は短刀を自らに突き立てる。

SE 刺す。

兵部

御仏よ。なぜです。私ではなく、一遍を選んだのです。あなたに愛されなかった私は、どう生きればよかつたというのです。誰よりもあなたを愛し、決して受け入れられずそれでも愛してしまう、そんな時、人はどうしたらいいのでしょうか？私のような弱い人間にどうしろと言うのだ。

一遍
兵部

そうか、今、気づいた。私は教えに囚われていたのか。いつもそうだ。気づくのが遅すぎる。もっと早く気づいていれば何とかなったものを。いや、所詮はそれが私の器か。一遍、私はお前が憎い。同じ時代に生れなければ。こうまで人を憎まずに済んだのに。一遍、お前は世を照らす光になると言っただけ。そうしてできた影に私は沈んだのだ。一遍、お前は正しい、正しかった。しかし、正しいだけでは足りぬ。私はお前に囚われていたのだ。一遍、我が人生ただ一度の敗北、それが棘のように、澱のように我が心に残り、私を捕えた。私は今、悟ったぞ。私は悟ったんだ。

一遍
兵部

兵部、飲み込まれていく。

一遍

待て、行くな。兵部。

SE
雷。

M10 「歌声は響く」

一遍

生まれ落ちて 旅立つまでに 人はどこかを 目指す
寄せて返す 悲しみの中 何を求めて 歩く
旅はまだ ゆくあてさえも 見えず
遙か彼方 誰も いない 道の 果てまで 辿り着き
誰か呼んだ 問いは 消えて 未だ 応えは 届かない
どこにあるの

月は 陰り 闇に 閉ざされ 濁き 倒れた大地
止まぬ 風に 声は 届かず まるで この世にひとり

あるがまま感じる つぼみ 開くときを待つ

限りなき宇宙の 中で 何を紡ぐのか

一遍

超一、まただ、また目の前で人が死んだ。また……。いつからだろう。また繰り返している。ずっと繰り返して来た、この輪廻を。歩み続けるしかないのか、いつそ歩みを止めれば、止めてしまえば……。

SE 雷。

一遍、座り込む。

死者たちが一遍を呼ぶ声が聞こえる。

死者たち

あきらめる。できるはずがない。歌を止める、踊りを止める。

一遍

螺旋はつながり 産声を上げる
種は時を経て 大地に根を張る
空を引き裂いて 天上へ伸びる
踊りの鼓動が 絶えることは無く
滅びの時まで 歌声は響く

一遍、自殺しようとする。

〈シーン22〉

超一房

あなた。

BGM IN。

一遍

超一。

超一房

さあ、立って。

一遍

今はそんな気分じゃない。

超一房

人は二本の足で立っているから人なのよ。

一遍

じゃあ座っているときは人じゃないのか。

超一房

座っているときはお猿よ。

一遍

寝てるときは

超一房

うし。

一遍

懐かしい。

超一房 さあ、笑って。一緒に踊りましょう。あなたは一人じゃない。何があっても。

一遍、立ち上がる。

一遍 逃げようとも逃げ切れぬ。己が宿命からは。ならば俺は生きる。

超一房、共に踊る。

一遍サス（センター前）

一遍

いつも歌が、踊りが心を癒してくれた。つらい時も、苦しい時も。いつだってそうだった。つらいことも、楽しいことも、始まって、そして終わる。人生も、いつか終わる。今があるがままに生きる。あるがままに遊び、あるがままに寝る、あるがままに感じ、あるがままに愛し、慈しむ。与えられた命があるがままに生き、そして死ぬ。太陽に抱かれ、大地に眠るその瞬間まで、俺は全力で歌い、踊り続ける。誰もが命を脅かされることなく歌って、踊っていられる。そんな日が来るまで。信じて、信じて、歌い、踊り続けてみせる。

N

河野水軍の本家に生まれ、仏門に入り、一切衆生の救済を願い、歌い、踊り続け最期まで歩みを止めなかつた男、一遍、入滅。

まばゆい光の中、一遍、入滅。

完